

さんかくひとりごと

～令和の時代を生きる女性にエールを～

「風の画家」とも呼ばれている中島潔さんの特集があった。ここ数年新しい挑戦を続け、令和の時代に生きる「力強い女性」の姿を描いて個展を開いている。中島さんに作品への思いを聞いていた。「自分はこういうことを今考えているんだということを必死に届けたい」という思いで描いていると話す。これまで男性が担ってきた分野の伝統や文化を令和の今受け継ごうとする女性の姿が映し出された。

静寂のなか鷹と呼吸を合わせて獲物をしとめる「鷹匠」。日本酒の繊細な味わいを求めて試行錯誤を繰り返す「杜氏」。炎に囲まれながらも鋭い刃と対峙する「刀鍛冶」。そして長年描きたいと思っていたという「ねぶた師」。一から勇壮なねぶたを作り上げていく職人の姿に同じく筆を扱う職業として敬意を抱いてきたと。「伝統や文化を守っていくためには変化が必要で、変化がないと次につながらない。伝統文化を守っていくためには女性の力が必要なのだ」と話す。何事にも時代に合った変化は必要だと思う。

絵の中の女性たちの力強いまなざしの中にしっかりととした意思が潜んでいる。「その人の持っているその人に合った生き方を思い切りひたすらに進んで欲しいと思うが、女性がその道に向かおうと思っても残念ながらまだ壁があるようだ。その壁が取り除かれて性別に関係なく互いに尊重し合える社会になればいい」と中島さんは語る。相手を思いやる、尊重することがおろそかになっているのではと。82歳の画家が「人はみんな一緒にいる。その人に合ったその人らしい人生を」という言葉と力強く生きる女性の絵で今をたくましく生きる女性たちに大きなエールを送っていると感じた。

自分がしたいことって何なのかよく分からないまま生きてきたような気がする。アンパンマンのマーチに「なんのために生まれて なにをしていくのか こたえられないなんてそんなのはいやだ」とあるが、考えてみれば奥の深い言葉だなあと。何回か迎えた人生の転機に違う選択をしていたら、また違った人生だったのだろうか？人生の終盤ともいえる今、こんなことを考える自分にもう少し先があるよと言い聞かせる。



(森)

ボランティア編集委員の編集後記

初めて国勢調査員の仕事をしてみた。“大変よ”と言われ、何が？と聞くと“何度も回る事”だと言う、それは民生委員の時、経験済みだと思った。何でも初めは気持ちがワクワクするもので、何が学べるか楽しみだった。やってみて成る程、在宅してくれているとお礼を言いたくなる。

(梅)

敬老の日の報道によると65歳以上の高齢者の割合が全人口の29.4%で過去最高になり、働く高齢者の数も過去最多を更新したそうだ。人手不足や定年延長で高齢者の活躍する場が増えた？だけではないだろう。高齢者の私たちも生活していくのに精いっぱいだよ…。

(森)

“実りの秋”的収穫を楽しみにしているが、熊が人間のごちそうを先取りしてしまい、熊出没のニュースが毎日聞かれている。今年は収穫泥棒の他に熊の対策に頭を悩ませられている。山の神様、熊が里に来ないよう見張ってください。

(のん)

※参画だよりは3名の市民ボランティア編集委員にご協力をいただいて発行しています。

■編集発行

弘前市企画部企画課ひとづくり推進室 ☎036-8551 弘前市大字上白銀町1番地1
電話：0172-26-6349(直通) FAX：0172-35-7956 E-MAIL：kikaku@city.hirosaki.lg.jp

ひとにやさしい社会推進セミナー

このセミナーは、男女共同参画社会の普及・啓発を行い、性別に関わらず、誰もが活躍できる環境づくりを目指すことを目的に開催しました。

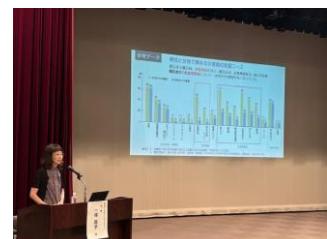
男女共同参画の視点を取り入れた防災講座～日常の安全も幸せもつくるのは私たち～

令和7年7月17日にふれ～ふれ～ファミリー代表一條敦子氏を講師に「男女共同参画の視点を取り入れた防災講座～日常の安全も幸せもつくるのは私たち～」と題してご講演いただきました。

前半に男女共同参画、後半に防災のお話があり、女性が避難所運営に関する大切さや、防災袋の中身など具体的な内容について、わかりやすくご説明いただきました。

講演後には、実際に段ボールベッドの組み立て体験を行いました。

20名にご参加いただき、「具体的な内容でこれから取り組みやすいと思った。」「女性の視点が理解できた。」などの感想がありました。



講師の一條敦子氏



セミナーの様子



参加者による段ボールベッド組み立て



「知る」から始める性の多様性セミナーアーカイブ配信

昨年12月18日に開催しました「『知る』から始める性の多様性セミナー～地域で支えるLGBTQ『新しい隣人 性的マイノリティ』」のアーカイブ配信を実施しています。LGBTQに関する基礎知識を学びながら、高齢期における暮らしや、人生の中で求められる対応について理解を深めましょう。

なお、このセミナーを視聴し、事業所内で理解促進を図ることで、LGBTQフレンドリー企業の登録要件を満たすことができます。

ぜひご視聴いただき、「弘前市LGBTQフレンドリー企業」への登録についてご検討ください。
事業者向けのセミナーとして開催したものですが、個人の方からの申し込みも大歓迎です。

配信期間 令和8年3月31日（火）まで

講 師 永易 至文さん（NPO法人パープル・ハンズ事務局長）

視 聴 料 無料 ※ただし、視聴にかかる通信費は自己負担。

申込方法 令和8年3月27日（金）の17時までに、

申し込みフォームから申し込みください。

※受付後、視聴URLをご案内します。



申込フォーム



弘前市LGBTQフレンドリー企業 登録企業のご紹介

弘前市LGBTQフレンドリー企業登録制度 登録企業 ※令和7年9月末現在

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 学校法人SKK | 7 株式会社創和不動産 |
| 2 国立大学法人弘前大学 | 8 社会福祉法人伸康会 |
| 3 株式会社弘都電気 | 9 津軽保健生活協同組合 |
| 4 株式会社相馬土木 | 健生病院 |
| 5 株式会社堀江組 | 10 津軽保健生活協同組合 |
| 6 損害保険ジャパン | 健生クリニック |
| 株式会社青森支店弘前支社 | |



弘前市は、令和5年10月11日より、性的マイノリティに係る理解の促進や配慮した取組を行っている企業等を登録する「弘前市LGBTQフレンドリー企業登録制度」を運用しています。令和7年9月末現在で10社の企業が登録しています。

弘前市LGBTQフレンドリー企業に登録するには？

性的マイノリティに係る理解の促進や配慮した取組を1つでも行なっていれば登録することができます。メールでの手続きも可能となっております。

弘前市LGBTQフレンドリー企業に登録すると…

- 市ホームページで取組内容等について紹介されます。
- 「登録証」、「登録ステッカー」、「登録ロゴマーク電子データ」が交付されます。市と一緒に、誰もが働きやすい職場環境づくりに向け取り組んでいきませんか。企業等の皆様からの申請をお待ちしています！

企業登録制度の詳細
登録企業の取組内容
はコチラから



未来が見つかる企業体験（理工系分野女性活躍推進事業）

この事業は、他の分野と比較して女性の活躍が進んでいないとされる理工系分野に目を向け、進路選択の前段階にある小・中学生や高校生に、地域における理工系分野での就業・進学イメージを形成することで地元定着率の向上を図り、地域が人を育てて地域に還元されるしくみづくりを目指しています。

地域企業技術力体験プログラム（令和7年8月5日～7日）

日程	体験企業	体験内容
8月5日	株式会社 環境工学	環境分析測定
8月6日	株式会社 ジョイ・ワールド・パシフィック	ドローンプログラミング
8月7日	株式会社 栄研	冷凍食品製造

延べ20名の小中高生が、それぞれの企業で飲料のpH測定、ドローンの操作、冷凍食品製造などを体験しました。

参加者からは、「実際に体験が出来ておもしろかった。」「一つ一つの内容を詳しく知れて勉強になった。」などの感想がありました。



株式会社環境工学での体験



株式会社ジョイ・ワールド・パシフィックでの体験



株式会社栄研での体験

きらめく人・ときめく心

☆今回のきらめく人・ときめく心は、清水 典子さん(コラムニスト)

清水さんは、津軽の女性たちのバイタリティあふれる姿を取材してまとめた「私的に素敵」（現在も継続中）、30年後に「私的に素敵 そのあとに」を連載中のコラムニストとして活躍している。陸奥新報の記者時代の平成6年より、農家の女性をはじめ頑張っている女性たちを取材し、連載したのが始まり。1人ひとりにドラマがあり、底抜けに明るい彼女たちから学ぶことやエネルギーをもらっていることに感謝し、出逢いを大切に取材はこれまで700人に及んでいる。長年続けられているのは、魅力発信できる醍醐味を感じているからだと思う。

○ インタビューする時の心がけは

- 取材では録音はせず一心に聴き、ノート一冊分もらさず書きとること
- 今年の春から「私的に素敵」はジェンダーフリーのコラムとなり、性別に関係なく素敵に生きている津軽人を取材し、紹介している
- 一方で、首都圏で活躍する青森県人の取材も20年近く続けており、複眼的な視点で青森を見て、取材するのが強み

○今後の抱負は？

津軽で生きている先輩たちの話を聴き、完全燃焼して自分の命を使い切りたい！日々大事に生きたい！年を重ねること自体がチャレンジである！

○マルチ・チャレンジャーとして（複数に挑戦する人）

神ツ実（ガマズミ）は昔、マタギたちが疲れを取る食材だった。神ツ実を試行錯誤してお茶に、県産の果物をドライフルーツとして販売することができ、「お茶っこするべし」（語り合いましょう）と空想喫茶“風花茶房”を開催し、優しい津軽弁で人としゃべることを楽しんでいる。絵本作家でもありマルチ・チャレンジャーである。とても魅力的で輝いている人であり、ときめく心を持った女性である。

清水 典子さん

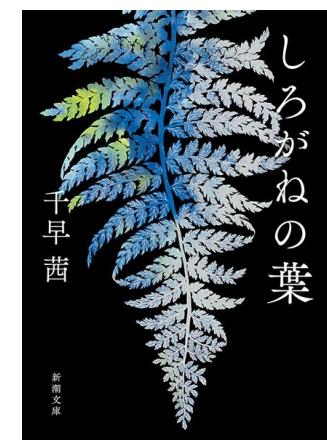


わたしと本『しろがねの葉』

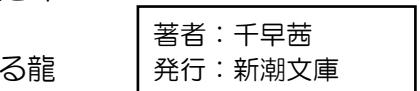
逃散した百姓一家は追手に迫られ、「先に行け！真っすぐ日の沈む方！」と叫ぶ母の声に、夜目（よめ：闇夜でも見える）の利く5歳のウメは、何日も走り続け気を失い目が覚めると、傍らに銀色に光ったシダの葉があった。ウメは「美しいと思った。」そこで出会った山師（銀の鉱脈を見つけ、銀飴たちの責任者）の喜兵衛と銀山での生活が始まった。関ヶ原の合戦の少し前の事である。間歩（まぶ：銀山）の中では夜目の利く勝気なウメは、女でも手子（てご：穴の中で雑用をする子）の仕事は直ぐ出来た。成長するに従い、袖なしに丈の短い仕事着は皆の気が散るとウメは間歩から追い出される。

自分も喜兵衛のようになると思っていたのに…。大好きだった喜兵衛と暮らした仙の山から隼人と暮らす大森の町へ移って、奥さん連中との付き合いに大人になっていくウメが伺える。銀山のことわざ、「銀山では間歩30才にして無病の者なし、やがて血を吐いて死ぬ、だから女は3人の男の嫁に生る。」。手子の頃からウメを好きな隼人は三人の子に恵まれ、気絶（けだ：不治の病）になることは覚悟の上であった、40才前に亡くなる。

ウメが喜兵衛と暮らしている頃、青い目をした訳ありの石工の子である龍を預かり、ウメに懐く龍に毎日山で生きる術を教えた。やがて大人になった龍がウメの二人目の夫になり、二人の子に恵まれたが、隼人と同じように亡くなった。やがて孫のいる年のウメは、仙の山の喜兵衛の家で畑を作り、一人、暮らしている。大人になっていくウメから目が離せない。皆が自分の意志を曲げずに生きていることに、今の時代かと錯覚する。



著者：千早茜
発行：新潮文庫



(梅)